

超光戦士シャンゼリオン (1996)

メディア TV

ジャンル 特撮

製作国 日本

色彩 Color

1996/04/03 ~ 1996/12/25

TV放映 水曜日
18:00~18:30
テレビ東京

【解説】

人類の生体エネルギー・ラームを狙う闇次元からの侵入者ダークザイド。その存在を知ったSAIDOCの宗方猛は、私財をなげうったプロジェクトにより、超光戦士シャンゼリオンを誕生させる。しかし事故によって、シャンゼリオンになる予定のSAIDOC隊員・速水克彦ではなく、ちゃらんぽらんな冴えない私立探偵・涼村暁がクリスタルパワーを浴びてしまった。暁は「燦然」の叫びとともにシャンゼリオンに変身、浮かれながらもダークザイドの闇生物とイヤイヤ闘うはめになる。

週に2本の特撮作品（戦隊&メタルヒーロー）を製作していた東映が送り出した3本目のヒーロー作品。ヒーローものの定石をことごとく茶化し軽妙な雰囲気貫いた井上脚本、クリスタル煌めくスーツのイメージ、ヒーローものらしからぬ主題歌（歌うは『セーラームーン・ミュージカル』でお馴染み小谷みさこ）など、今までにないヒーロー像を作ろうと新機軸に挑戦した姿勢は評価できる。ビデオ撮影の作品だが、佐川特撮によるサポートメカのシーンはフィルムで作られたため、本編と違和感たっぷり、本作の持つテイストを奇妙な形で支えていた。

敵ダークザイドは、三幹部が君臨しているものの、自分たちの種族のためではなく、個人的な欲望のために悪事を働くなどの描写が面白い。また、第11話から参入した第三の勢力・黒岩省吾＝暗黒騎士ガウザーの存在感は、彼の「知っているか！」で始まるウンチク口上、東京都知事に当選してしまうという驚愕の展開とともに忘れ難い。主人公・萩野崇、秘書役の林美恵、最近の東映特撮お約束のAV出身・瞳リョウ（第15話ゲスト）など、男女とも美形を多くキャスティングしたことで、作品の質とは関係ない部分で好評を得た作品でもある。

【クレジット】

監督	長石多可男 小中肇 蓑輪雅夫 諸田敏	
アクション監督	金田治 山田一善	(ジャパンアクションクラブ)
プロデューサー	岩田圭介 木村京太郎 吉川進 白倉伸一郎	(テレビ東京) (読売広告社)
原作	八手三郎	
脚本	井上敏樹	
キャラクター造型	前澤範	(レインボー造型企画)
キャラクターデザイン	篠原保	
CG	笹原和也	(東映アニメーション研究所)

撮影	岡部正治	
特撮監督	佐川和夫	
視覚効果	映画工房	
美術	井口昭彦	
編集	須永弘志	
音楽	安川午朗	
アクション	岡元次郎	
	高橋利道	
	永瀬真	
	佐治康志	
	大村亨	
特技・操演	鈴木昶	(株)特撮研究所)
	阿部匠	(株)特撮研究所)
特技・撮影	中根伸治	(株)特撮研究所)
特技・美術	木植健次	(株)特撮研究所)
出演	萩野崇	涼村暁／シャンゼリオン
	相澤一成	速水克彦／ザ・ブレイダー
	市山登	宗方猛
	林美恵	橘朱美 (涼村探偵事務所秘書)
	松井友香	桐原るい／綾乃小路麗華 (二代目秘書)
	東風平千香	南エリ (SAIDOC隊員)
	小川敦史	黒岩省吾／暗黒騎士ガウザー
	広瀬匠	片桐一樹／闇将軍ザンダー
	遠藤あゆみ	小夜子／ザファイア